

2013年(平成25年)10月1日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457(記事責任者:広報部萱間)



大阪湾 Years と水産多面的機能発揮事業参画

来田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

大阪湾の再生に関心を持つ人々が集まる「大阪湾イヤーズ」の記念イベントとして、大阪自然史博物館(大阪長居)で、特別展「いきものいっぱい大阪湾～フナムシからクジラまで～」が7月20日から10月14日までの期間開かれています。

一方、天保山の海遊館でも、大阪湾 Years 連携企画展「大阪湾スナメリ発見～知ってほしい大阪の海～」が開かれています。

いずれも大阪湾再生計画のスタートから10周年を記念して、次なる再生運動に発展させるためのムーブメントです。



どちらもぜひ見ておきたい様々な展示が数々あります。一例をあげると「大阪湾に住む魚の標本」コーナーでは、かつておなじみだった、そして、いまはめったにお目にかかることのできないガッチョなど、実は7種類もあったことがわかりますし、ほかにもお馴染みの釣り対象魚が一目で判別できるように展示されています。遺跡から出土した弥生時代のタコツボも一見ものです。

海遊館でも、かつて大阪湾がどんな様子であったかその歴史がわかりやすく展示されているほかに、NPO法人釣り文化協会のHPに連載されている大阪湾原風景「ちぬのうみ再び」の河村立司さんの原画が、美しくプリントされています。シケの日にもぜひ見に行ってください。

さて、今年は、わたしたち釣り人と水産行政にとって画期的な年でもあります。水産庁の新規事業として始まった「水産多面的機能発揮事業」です。いままで、水産庁から(一社)全日本釣り団体協議会を通じて配分されていた各種の予算とは別に、全釣り協傘下の各地の団体が、地方自治体を通じて一定の該当する項目について申

請すれば、直接予算が配分されるシステムが発足しました。詳細は8ページに掲載しています。

それにつけても、JOFI 大阪の皆さんにお願いしたいのは、これまでも年間各行事や、大阪南港魚釣り園、港内巡視報告、水質調査など多忙だったうえに、さらに重ねて、多くの事業がスタートすることです。ボランティア活動にこれ以上のご苦労と時間の供与を求めるのは、誠に心苦しい次第ですが、国の行政に対して釣り人の立場として、さまざまな意見を提案するために欠かすことのできないプロセスとして、ぜひともより一層のご協力をお願いします。

もうひとつ、大阪南港魚釣り園の管理協力体制について、管理棟の廃止は大阪市の議会で決められていますが、そのあとどうなるかについては、未知数です。この夏皆さんの協力で行ったアンケート調査の結果を踏まえて、大阪市側と積極的な交渉をすすめていくことにしています。

わたしたちの言い分、すなわち、わたしたちが堂々と釣りを楽しむことができた海辺が、100% 人工護岸に変わった現在、先年「大阪方式として市側の理解を得て発足した「立ち入り禁止としない場所」だけでは、安心して子供連れで釣りにいく場所がなくなってしまおう」という問題の解決にはならないことを、うたてていきたいと思っています。このことにもぜひご理解を頂きたいと思います。



2月2～3日、インテックス大阪で開催した「フィッシングショー大阪 2013」の大阪府海域美化安全協会・大阪湾環境保全協議会・国土交通省合同ブース「大阪湾の再生」にて、釣り人による大阪湾の再生活動の取り組みを紹介しました。パネル展示の内容は、釣り人だからできること（環境美化、水質調査、安全と釣りマナー指導など）です。ショーには、新しい釣具に会いに来られる人がほとんどですが、ブースで実施した「大阪湾クイズ」にも人が集まり、環境を考えている釣り人からの意見を聞くことができました。今回のショーでは「つり環境ビジョン」の発表もあり、釣具メーカー、釣り人共に環境への意識を感じました。



次年度のフィッシングショー大阪にも出展予定。

3月10日、海遊館ホールにて「第9回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」を開催。それに先立ち3月1日よりプレイベントとして、大阪港で使われていた昔の釣り道具（辻哲男氏所蔵品）などの展示を行ないました。

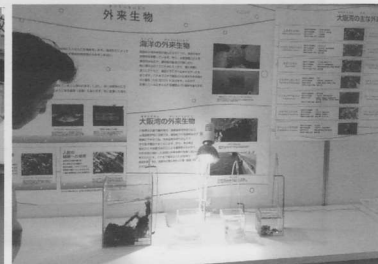
フォーラム当日は、天保山マーケットプレース・フードコート横に大きな展示スペースがつくられて各団体の活動報告展示があり、天保山栈橋では、国土交通省の清掃船「Dr. 海洋」の特別見学会が開催されました。

海遊館ホール「“大阪湾 Years2012-2013”大阪湾見守りトーク」では、最初に県立尼崎小田高校による湾奥環境調査の発表が行なわれました。見守りネットメンバーによる発表では、「大阪港の釣り今と昔」と題して当会の来田仁成代表がお話しました。

また今回は見守りネットが10年目を迎えようとしているということで、市民活動についての研究「広域の市民参加型環境活動における見守りネットの役割とあり方」（大阪府立大学大学院福富雅敏氏）の発表があり、それを受けて総合討論として「大阪湾見守りネットの今後のあり方」をテーマに、府立大学の上甬木昭春氏をコーディネーターとして意見を出し合いました。



▲Dr. 海洋の特別見学会
◀見守りの今後について話し合う



湾奥部の水質調査発表▶
▼竹製のボラ竿とこすり竿の展示



主催：大阪湾見守りネット（参加団体：大阪南港野鳥園、大阪自然環境保全協会、大阪湾見守りネット、大阪湾環境保全協議会、大阪府海域美化安全協会、和泉鳥取高校フィールドワーク同好会、釣り文化協会、貝塚市立自然遊学館、堺2区鳥類調査会、アマモ種子バンク、大阪コミュニケーションアート専門学校、海遊館、きしわだ自然資料館、近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所、大阪湾広域臨海環境整備センター、JF兵庫県漁連、大阪湾環境再生研究会国際人材育成部、近木川流域自然研究会、沖洲海浜楽しむ会、浜寺公園自然の会、西淀自然文化協会、以上21団体）

さっそく釣り場清掃にかかります。約一時間、水辺に浮かんだ浮遊ゴミ、吹きだまりに溜まったゴミなどをみんなで協力して集めま

たっぷり詰まったメニューでしたが、講師、後援、TV カメラ、ポスター準備、釣具の協賛、料理製作、設営など協力いただいた皆様のお陰で意義のある研修会を開催することができました。改めてお礼申し上げます。（実行委員会）

▲鍋島先生による港灣の生き物ワークショップ。

3

G.W. スペシャルさぐり釣り教室 (H25-5/4)

5月4日、南港魚つり園にて活きエビによる探り釣り教室を開催。今年のゴールデンウィークは後半になって一気に気候が良くなり、南港魚つり園もご家族連れでいっぱいになりました。

毎年恒例の活きエビによる探り釣り教室も人気で、受付開始の30分前にはすでに定員を越える人が並んでいました。親子で1本の竿と活きエビを少しバケツに入れてお渡しします。仕掛けはオモリから20cmほど枝バリを出したシンプルな探り釣り仕掛けです。

最初に5~6人単位で釣り方をレクチャーし、釣り場に入ってもらいます。その後でインストラクターは見回りながら指導します。

1週間前にはイワシの回遊がありましたが、この日イワシは釣れず、探り釣りでガシラの釣果が出ました。長年この教室を続けてきて、南港でもこの釣り方が広まってきました。初心者の釣りがサビキ釣り一辺倒から変わったことで、釣果を手にする人が増えてほっとしています。



家族連れでにぎわう南港魚つり園。

この方は親子で10匹ほどガシラを上げて大満足でした。

第17回 JOFI 大阪定時総会 (H25-3/31)

大阪府釣りインストラクター連絡機構第17回定時総会は、3月31日、大阪南港魚釣り園事務所で開催しました。来田代表の挨拶、全日本釣り団体協議会綿井良隆常務理事の挨拶のあと、山崎勝彦議長を選出して議事を開始。了承事項の第一号議案から第四議案まで各担当部長等が説明し満場一致で承されました。決議事項の第一号議案から第三号議案ともに決議し、第四号議案役員に関する件については、会員の多くが参加できる体制と新しい役員人選の意見もあ

り、この1年で検討していくことが決議されました。本年度も皆で力を合わせ JOFI 大阪を盛り上げていくことを確認して総会を終了しました。(報告：事務局 物部胤三)



今年度で建物を取り壊しになる予定の為、記念として南港魚つり園にて開催しました。

石川大清掃に参加 (H25-3/3)

3月3日、石川大清掃への参加および支部会を行ないました。石川大清掃は、富田林市の石川を美しくする市民運動協議会が主催する活動で第30回目となります。当日は天気も良く、日頃会えない



JOFI メンバーに会うことができました。(報告：堺南河内支部清水保雄)

やってみよう！魚拓教室 (H25-5~8月)

冬場から春先まで中断していましたが、季節の良くなった5月、南港魚つり園では「やってみよう！魚拓教室」を再開。夏休み期間中は7月28日から8月末まで毎週日曜日に実施しました。

釣った魚を持ってきてもらい、洗って、型において、ヒレを立てて…と、コツを教えつつやってもらいます。濃い墨と淡い墨を塗り分けるのがポイントですが、子供さんは覚えが早い！すぐに上手になってくれるので教えるほうも楽しいですね。また今年はタコがよく釣れているので、「イカ・タコもOK！」の看板も出しました。教室の先生も随時募集中ですので、JOFIの皆さんのご参加お待ちしております。(報告：辻哲男)



ほら僕にもできた！

大阪南港&姫路でこどもの日イベント開催 (H25-5/5)

【南港魚つり園こどもの日釣り大会】

5月5日、南港では快晴無風雨の天気で釣り大会をすることができました。私たち釣りインストラクターは、前日の釣り教室と同じように釣り場を回って声を掛けさせてもらいます。今日もご家族連れの方がたくさん来ておられました。

大会は入場者全員が参加することができ、審査は8時から11時まで。今日一日楽しく釣りができたことが一番良かったことだと子供たちに話して、参加者全員に賞をお渡ししました。

【姫路遊漁センターこどもの日釣り教室&ミニ大会】

5月5日、姫路市立遊漁センターは開門と同時に長蛇の列。約130名の釣り人が入場、そのうち子どもは約60名。釣り教室では仕掛けの作り方やエサの付け方を実習。幼稚園児から中学生まで幅広い年齢層で、時間をかけて楽しく学びました。

釣り大会で釣れた魚種はセイゴ・キス・メバル・ガンシラ・アイナメ・カレイなどでした。今日の経験が感動の思い出の1ページになって残ってくれば嬉しいです。(姫路報告：吉田実寛)



「今日は仲間と助け合って一日楽しく遊べたことを感謝する日です」



おじいさんと来られたこの少年はカレイのグッドサイズ！



大阪南港はボラが撒き餌に集まって...



第6回大阪湾生き物一斉調査 (H25-6/9)

6月9日、堺2区生物共生型護岸(友海ビーチ)&堺浜(ふれあいビーチ)にて生き物一斉調査を開催しました。

わたしたち JOFI メンバーは、採取調査の前に釣りによる調査を行ないました。塩見さんを班長にインストラクター7名で5時半から9時頃まで。釣った魚はスズキ7匹とアイナメ1匹でした。また一般参加者の皆さんが集まる前にインストラクターで釣り場清掃を行ないました。

10時ごろに一般参加者の受付を行ない、潮が引く時間まで、水質調査講習会を行ないました。萱間さんと小川さんが解説し、今日の水温、気温、潮の色と、大和川河口にあるこの場所では表層と底層の塩分濃度が大きく違うことをまず確かめてもらいます。

潮が引き、生物共生型護岸の砂地が現れてきたところで、大谷先生と鍋島先生の指導で調査に入ります。

魚類では今年はマコガレイが見つかりました。

フジツボはタテジマフジツボ、ドロフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボなど汽水域を好む種類。貝はシジミ、アサリ、

マガキ、ムラサキイガイ、コウロエンカワヒバリガイなど前回と同じ種類。ヤドカリはユビナガホンヤドカリがほぼ全部。

今回のテーマであるカニも95%はケフサイソガニかタカノケフサイソガニですが、モクズガニ、チチュウカイミドリガニも見つかりました。

今回はもう一カ所、今年オープンしたばかりの堺浜ふれあいビーチを調査しました。投網を打って採取しましたが、今のところ生物の種類は多くはないようです。これも貴重な記録です。



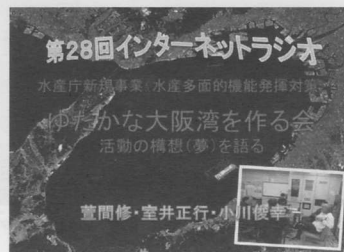
第6回大阪湾生き物一斉調査の結果発表会は、9月23日、大阪市立自然史博物館にて開催します。また結果の公表は国土交通省近畿地方整備局のホームページ「大阪湾データバンク」にて行なっていますので参照下さい。



インターネットラジオ配信中！

「釣り文化ラジオ」は大阪南港魚釣り園にて収録しています。8月11日の配信で第28回目となりました。話題は多岐に渡りますが、インターネット配信ですので、興味のあるものを自由に選んで聞いていただけます。開始して1年半、楽しい釣り話もあれば、大阪における釣り場の現状なども見えてきて、内容的にも充実してきたと

思います。進行：小川俊幸・室井正行、技術：田隅衛で制作をしています。会員の皆様の楽しい話もまた聞かせて下さい。



「ジュニア釣り教室」「水質調査教室」「チヌ稚魚放流」など 夏休みイベントを開催 (H25-7/28)

今年は夏が早くからやって来て、南港魚つり園ではイワシや豆アジがよく釣れていました。夏休みに入った7月28日、最初の日曜日にジュニアのためのイベントを盛りだくさんで開催しました。

【ジュニア釣り教室&釣り大会】

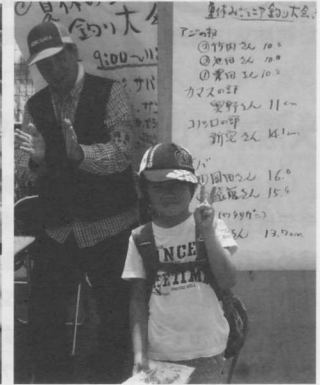
8時半から11時まで、初心者の方に竿とリールをお貸して、サビキ釣りの教室を行ないました。初めて釣りをされるという方にとって最初の1匹はとても大事です。釣れたら一日が楽しくなるし、釣りに対する好感度がアップして、また釣りを楽しんでくれるようになります。巡回指導をしながら釣り方を見させてもらいました。

釣り大会のほうは、中学生以下の来園者全員が参加できる大会として開催し、11時半から表彰を行ないました。イワシ、アジ、サヨリ、エイなどが釣れました。



【水質調査教室】

10時から、夏休みの自由研究に役立ててもらおうと、恒例の水質調査教室を行ないました。この日アジが釣れたのは底のタナだったのですが、水質を調べれば答えは一発です。塩分濃度が表層が15%、底層は30%と大きく違いました。釣りを理解すると賢くなるというのは本当ですね。



【チヌ稚魚放流】

11時から、南港魚つり園指定管理者であるハウスビルシステム主催で、チヌ稚魚4,000尾を放流。「大きくなって帰ってきてね～」と、たくさんの子供たちが放流を体験しました。



元気なチヌの稚魚。全長4~5cmのものを、4,000尾放流しました。

南港利用者アンケート調査実施 (H25-7/28-8/31)

南港魚つり園が、来年度から一般護岸と同じように、管理をしない釣り場になるということが2月の大阪市議会で決まりましたが、利用者の意見を聴取していないという経過がありますので、遅れさせながら夏休み期間に「利用者アンケート」を行ないました。9月中に集計して大阪市に提出する予定です。何よりも小さい子や身体の弱い方でも安心して釣りができる施設をぜひとも残してほしいものです。



水産多面的機能発揮事業が始まります！

「大阪府豊かな海づくり協議会」設立

8月20日、岸和田の大阪府漁連水産会館にて「大阪府豊かな海づくり協議会」の設立総会が開催されました。

この協議会は、大阪府における水産多面的機能発揮対策事業の実施にあたり、その活動組織を指導監督する役割を担います。

設立総会では規約、役員、事業計画、活動団体事業計画などを承認しました。これを受けて水産庁に対して協議会設立を報告し、活動地域（市町村）との協定書の締結後、活動組織から上がってきた活動計画を承認し、実際の活動がスタートすることとなります。

大阪府豊かな海づくり協議会の構成員は、行政、専門家、市民またはNPO、漁業組合、活動地の自治体からなり、市民NPOの代表としてNPO法人釣り文化協会が構成メンバーとなっています。また釣り文化協会は協議会の事務局を担当します。

大阪府では活動組織が2つ

「水産多面的機能発揮対策事業」について簡単に説明しますと、今年度から3年間の水産庁の新規事業であり、漁業者単独組織では認められず、市民またはNPOと漁業者が連携した活動組織による「国境警備」「地球環境保全」「漁村文化の継承」のいずれかの事業に対して国費を充てるといふものです。

初年度9月の時点で、全国に740を超える事業申請があり、そのほとんどは漁業者を母体とした、これまでも漁場づくりに関わってきた方々がつくった活動組織からのものですが、大阪府では、大阪府釣りインストラクター連絡機構、大阪湾見守りネット、湾岸シーバス、地元漁協組などを中心に組織した「豊かな大阪湾をつくる会」（活動組織1）と、大阪府漁連を中心とした「大阪府豊かな海推進協議会」（活動組織2）の2つの活動組織があり（よく似た名前ですので活動組織名自体は覚えていただかなくても構いませんが）、それぞれに漁業者と市民が協働して地球環境の保全、漁村文化の継承を目的とした活動を行ないます。

活動組織1の申請している事業計画は、

- ①アママ場の増殖（せんなん里海公園）
- ②稚魚放流（阪南市沖）
- ③漂流漂着物の回収処理（阪南市海岸）
- ④環境負荷の少ない釣漁具推進釣り大会（尾崎、箱ノ浦等）
- ⑤大阪湾食文化フォーラムの開催（岸和田市浪切ホール）

活動組織2の申請している事業計画は、

- ①海底耕うん（阪南市沖）
- ②流域の植林（岸和田市神於山）

となっており、（ ）内は予定場所です。計画通り承認されれば、今年度10月から活動がスタートします。

JOFIとしての大きな意義

活動組織1では、わたしたちJOFI大阪メンバーが主体となって、釣り場づくり、釣り文化の伝承、釣りマナーの普及、稚魚放流、自然海岸の美化活動などを実施することとなります。

釣り場保全等の事業に釣り人が参画する機会が与えられたのは、水産行政の中でもかつてないことです。また、漁業者と共同体をつくるということも初めてであり、たいへん大きな意義があります。

その意義をより多くの釣り人に知っていただくことも重要な仕事であり、JOFI大阪メンバーのご協力をお願いするとともに、一般の市民、釣り人、釣具メーカーの方々にもぜひ参加していただけるようにご案内し、ご協力をあおがねばならないと考えております。

実施内容が決まりましたら、ホームページにて発表し、参加案内をさせていただきますので、よろしくお願いします。（承認されるまで発表ができないため、準備している期間が少なくて申し訳ありません、何卒ご協力下さい。）

（水産多面的活動組織1 実行委員 / JOFI 広報部：萱間修）



阪南市の海岸。水産多面的機能発揮事業はこの阪南市にわずかに残る自然資源と大阪湾に伝承される漁村文化を守るという目的を掲げ、阪南市と岸和田市で実施する予定です。大阪にもこんな美しい自然があることを、まずは多くの府民の方知ってもらいたい。